



蒼海

令和 7年 3月24日発行
第 5 号

北海道苫小牧支援学校
苫小牧市明徳町3丁目10番3号

一年間を振り返って

— 子どもを主語にした学校づくりに向け、次年度もどうぞよろしくお願いいたします —

校長 小笠原 正 樹

長く厳しい冬の寒さもようやく緩み、少しずつ春の気配が感じられる季節になってきました。

保護者の皆様には日頃から本校の教育活動に対しまして御理解と御協力をいただき、深く感謝申し上げます。おかげさまで本年度の教育活動も予定どおり実施することができました。

今年度は、重点教育目標「小・中学部が連携した系統性・一貫性のある教育課程の編成と実施」— 一人ひとりの9年間(12年間)の学びの充実と、ビジョンの実現へ — の達成に向け、保護者の皆様、地域・関係者の皆様の御支援をいただきながら日々の教育活動に取り組んできました。この一年間を振り返ると、昨年度より校内研究で取り組んできた ICT 機器を活用した生きる力を育む授業実践について、まだまだ更なる充実に向けて取り組むべきことはあるものの、本校としてすっかりスタンダードな授業スタイルとなりました。子どもたちがタブレット等の ICT 機器を操作しながら学習に興味を持ち、主体的に学びに向かう姿勢を見せてくれるといった、成長した姿をたくさん見ることができました。今後も ICT という便利なツールを必要に応じて効果的に活用することを通して、子どもたちに「どんな力を育成するのか」、その力が身に付いたことで子どもたちは「何ができるようになるのか」を継続して追及していきたいと思います。

また、3月18日(火)には、令和6年度小学部・中学部卒業証書授与式が挙行されました。卒業生は4月から新たな道を歩み始めることになります。御卒業おめでとうございます。

卒業生も在校生も、一人一人が友達との学校生活で培った「確かな力」を発揮して、自分らしく、生き生きと、そして一步一步しっかりと、目の前の道を歩み続けてくれることを願っています。

さて、今、学校には「一人一人の子どもを主語にする学校づくり」が求められています。これを言い換えると、「子どもが真ん中」の学校ということです。

昨年の12月に本校で初めてとなる公開授業研究会が開催され、全道からたくさんの先生方に御参加いただきました。参加いただいた先生たちからは、「地域が一体となって子どもたちを育てようと取り組まれていることが感じられました」等、大変ありがたい感想をいただいております。

令和7年度は本校においても子どもたちに関係する人々や地域が協働で、「子どもが真ん中の学校づくり」を推進したいと考えています。全ての子どもが主語となり「学びは楽しい」と感じ、「その子とその子らしく育つ」ことができるよう、次年度も進化・深化・真価する学校を目指してまいります。

また次年度の教育活動を推進する上で、教職員のチームコンセプトを「子ども、保護者・地域、教職員全てのウェルビーイングの実現」と設定しました。ウェルビーイングとは、体も心も元気で、一人ひとりが幸せや生きがいを感じるとともに、家族や職場、地域の人など、社会との温かい繋がりを感じている状態のことです。

児童生徒たちそれぞれの学習の進度に応じた学習者主体の学びや、他者との協働的な学びによって協働性や社会貢献意識等の醸成を図ること、加えて本校が継続して取り組んでいるきめ細やかな指導を通じて、確かな学力を育成することで、児童生徒のウェルビーイングの向上が図られると思います。

本校は4月から開校5年目を迎えます。この4年間、一人ひとりのお子様の成長を願い、保護者の方をはじめ、関係者全員で種を撒き、地域とのつながりが年々深まってきました。

次年度も本校の教育がアップデートされ続け、一層の充実が図られていくために、変わらぬ御支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

「中学生生活を振り返って」

中学部主事 米山 隆弘

今年度も中学部3年生は、卒業を迎え高等部への進学が決まりました。入学から卒業までの中学生時代を、この苦小牧支援学校で過ごして次のステップで活発に生活する姿を想像すると頼もしく感じています。

入学当初の不安な表情の生徒たちが、陸上記録会や宿泊学習、校外学習の経験を経て自信をつけて友達や先生方とたくさんのかかわりを経験して、一人でできることもたくさん増え、優しく、頼りになる人になりました。この3年間でたくましく、大人になったなと感じる場面がたくさんありました。

一年は本当にあっという間です。この間、1年生が入学してきたと思ったら、もう春が来て生徒が巣立っていきます。入学後の日々を少しずつ成長していき、食事の量が増えたり、スケジュールや日課表を確認し、一人で行動できるようになったりして、生徒がそれぞれに将来の自立した社会生活に向かって確実に歩んでいます。日常生活の指導などで同じことの繰り返しや学習、経験の積み重ねが小さな一歩になり、さらに大きな成長につながっていると信じています。

児童生徒の成長や変化に気付けたとき、その成長を褒められた子どもたちも同じように自分ができたことに気付いています。今後も児童生徒の成長を見逃さず、御家庭と連携しながら指導を進めていきたいと思っています。進路など将来の社会生活を見据えた情報を共有しながら中学生生活の充実に努めていきますので、今後とも、小さなことでも相談していただければ幸いです。

保護者の皆様、一年間、御協力ありがとうございました。そして、3年生のみなさん、御卒業おめでとうございます。

転出職員の紹介



	校長 小笠原正樹 役職定年 札幌あいの里高等支援学校へ 3月31日をもって役職定年を迎え、4月からは教諭として教壇に立つこととなりました。開校からの4年間は、多くの出会いや貴重な体験をさせていただき、保護者の皆様方と子どもたちの成長を見守ることができたことは、私にとって何よりの喜びであり、財産でした。今後も学校と地域のつながりが一層深まり、苦小牧支援学校の教育が益々充実・発展されることを心より願っております。これまでお世話になりましたことに感謝申し上げますとともに、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
---	---

教諭 桐村 優子 退職	心優しい子どもたちと過ごせた日々感謝しています。お世話になりました。ありがとうございました。	専門支援員 有澤 敦子 退職	これからも苦小牧支援学校の児童生徒の皆さんの更なる成長を願っております。ありがとうございました。
教諭 三好みどり 退職	筑波大学附属久里浜特別支援学校 新採用 4月から新たな挑戦で、神奈川県でがんばります。開校からの4年間、楽しい時間を過ごせたことに感謝します。	教員業務支援員 平沼 優子 退職	2021年2学期より、消毒や給食準備等のお手伝いをさせていただきました。3年半お世話になりました。
教諭 下田 裕之 転出	札幌伏見支援学校もなみ学園分校へ 皆さんと一緒に笑ったり、楽しんだりしてきた日々が大切な思い出です。ありがとうございました。	環境整備員 堀本 賢治 退職	短い1年間でしたけど、支援学校という未知の学校で特別な経験をさせてもらい、感謝しています。
事務主任 佐藤 み雪 退職	このたび3月末をもちまして退職することとなりました。2年間皆様にお世話になり、ありがとうございました。	～令和7年度 4月の主な行事予定～ 4月 8日(火) 1学期始業式・着任式(11:10 下校) 4月 9日(水) 入学式(11:10 下校) 4月17日(木) 尿検査①、PTA 事務局会議・役員会 4月21日(月) 全校集会① 新入生・転入生個別懇談(～25日) 4月25日(金) 保護者説明会／PTA 総会 *4月の詳細予定及び5月以降の行事予定については、 4月8日(新入生は4月9日)に配付します。	
期限付教諭 寺崎 悟 任期満了	苦小牧市立光洋中学校へ 開校初年度から4年間お世話になりました。憧れの教師にも成れ、人生の中で宝物のような4年間でした。		
専門支援員 松井伊津子 退職	開校から4年間お世話になり、子どもたちからたくさんのパワーをもらいました。ありがとうございました。		



